



町長退任のあいさつ 小宮山和幸

この度、4月29日をもって町長の職を退任いたしました。

平成19年5月、立科町長に就任以来、その責任の重さをかみしめながら、自分が生まれ育ったこの立科町を、「住んでよかった、住みたくなる町」を目指して「皆で一緒にふる里創り」を掲げ、町政運営に努めてまいりました。

日本経済は低迷し、少子高齢化、人口減少、所得の格差が広がり、特に地方自治体では国の補助金の縮減、地方交付税の減少など厳しい財政状況が続く中で、創意工夫を凝らし健全財政を堅持していくことが求められておりました。

自立を選択した当町におきましても、三位一体の改革により町税への税源移譲が行われたものの、安定的に交付されてきた所得譲与税や特例交付金等の廃止・縮小も併せ、地方経済や雇用情勢の回復の遅れなど先行きが不透明な状況下で、実効性のある経済対策による地域の活性化と財政の健全化の両立という困難な財政運営が求められる中、事務事業の見直しや町税をはじめとする自主財源の確保対策に努め、地域社会における自助・共助・公助を基本として、町民皆様と行政が力を合わせて、この難局を克服し自立を確かなものとしていくことが私の使命であると感じておりました。

私は安定した財政の健全化を考えたとき、経営的視点に立ち、徹底した財政改善の必要性を感じ、まずは返済額のピークは過ぎたものの、就任当時18%を超えていた実質公債費比率の改善や、必要性・緊急性を見極めた事業の選択と集中を常に念頭に置き事務事業を遂行してまいりました。

懸案でありました実質公債費比率の改善につきまは、上下水道事業をはじめとする年利5%以上の借入金の繰上償還を行い、平成25年度決算において4.6%までに改善ができましたことは、町民皆様方のご理解と職員の努力による賜物と考えております。

また、少子高齢化、人口減少問題は深刻な状況であり、町の高齢化率は30%を超え、今後更に、核家族化が進み一人暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯が増加することが予想される中で、高齢者が地域で安心して生活が続けられるために介護サービス等の充実が急務でありました。社会福祉施設のあり方を検討し、徳花苑の増床移転、地域密着型介護福祉施設の機能強化等、真に必要なサービスを提供する環境を整えるため、社会福祉法人を設立し介護サービス事業の移管を選択し、更なる高齢者福祉の充実が期待されるものと確信しております。

産業振興につきまは、日本100名山のひとつ蓼科山を擁す立科町では、その計り知れない恩恵を経営資源とした農業・観光・商工業振興に結びつけた立科ブランドの構築などにも力を注いでまいりましたが、豊かな自然を持つ立科町が全国に力強く根付いていく起爆剤となることを願っております。

任期中、進めてまいりました全ての施策は、立科町の将来に備え、自立を確かなものにすると思っております。

次代を担う子ども達が夢を持ち、ふるさと「立科町」を愛し、明るい未来を描けるよう、更なる子育て支援・住民福祉・産業振興の充実に向け、町民の幸せ・満足度が実現する町政であることを心から祈っております。

最後になりますが、苦しくも充実した2期8年でありました。貴重な経験もさせていただき、これも偏に町民皆様のお力添えのお陰と、改めまして感謝申し上げます。立科町の限らない発展と町民皆様のご健勝・ご多幸を祈念申し上げます、お礼のごあいさついたします。

副町長退任のあいさつ

森澤光則

このたび、平成27年5月15日付けをもちまして、副町長の職を退任いたしました。

昭和45年に当町に奉職以来、福祉、税制、農政などの業務に従事し、平成19年には副町長に就任させていただきました。

この間、45年間に亘り立科町の町勢発展とともに町民の皆様方並びに議会をはじめ、関係各位の温かいご理解とご協力をいただき、町づくりに従事できましたことに深く感謝を申し上げます。

今後は、一町民として立科町の更なる発展と輝かしい未来を願い、微力ながらお役に立てればと思っております。最後に、皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます、退任のごあいさついたします。長い間ありがとうございました。

